

## 【IV】 涼を演出する樹木

被子植物においては花の咲かないものはない。花が咲かないと思っているのは我々が花を知らないだけなのである。楠や柳の木、桂や欒(クヌギ)など、とかく花の目立たない植物は、公園樹や並木として、また時には庭木として樹の形や葉の美しいものが意外と多い。樺(ケヤキ)や榎、百合の木や山毛櫸(ブナ)など、大きくなる木が多いのもこの仲間の特徴であろう。このため特別な木として、ご神木やランドマークになっているものも少なくない。しかしこうした木々の何よりの利点は、芽吹き時の美しい緑と、夏の緑陰であろう。最近では植物に夏の涼を作らせようとする実験があちこちで行われている。屋上に庭園を造り芝を張り込んだり、ビルの合間に楠や樺の大樹を植え込もうという考えである。うまく機能すると2~3度ほど気温が下がり、冷房効率がアップするのだという。確かに大樹の木陰に入ると、炎天下よりも3~5度も気温が低い。夏のさなかに坂道を上って神社を訪ねたときに、境内の樹陰で一心地ついたことを経験した方も多かろう。そして木陰に包まれる事により、精神的な爽涼感が増すことも確かであろう。

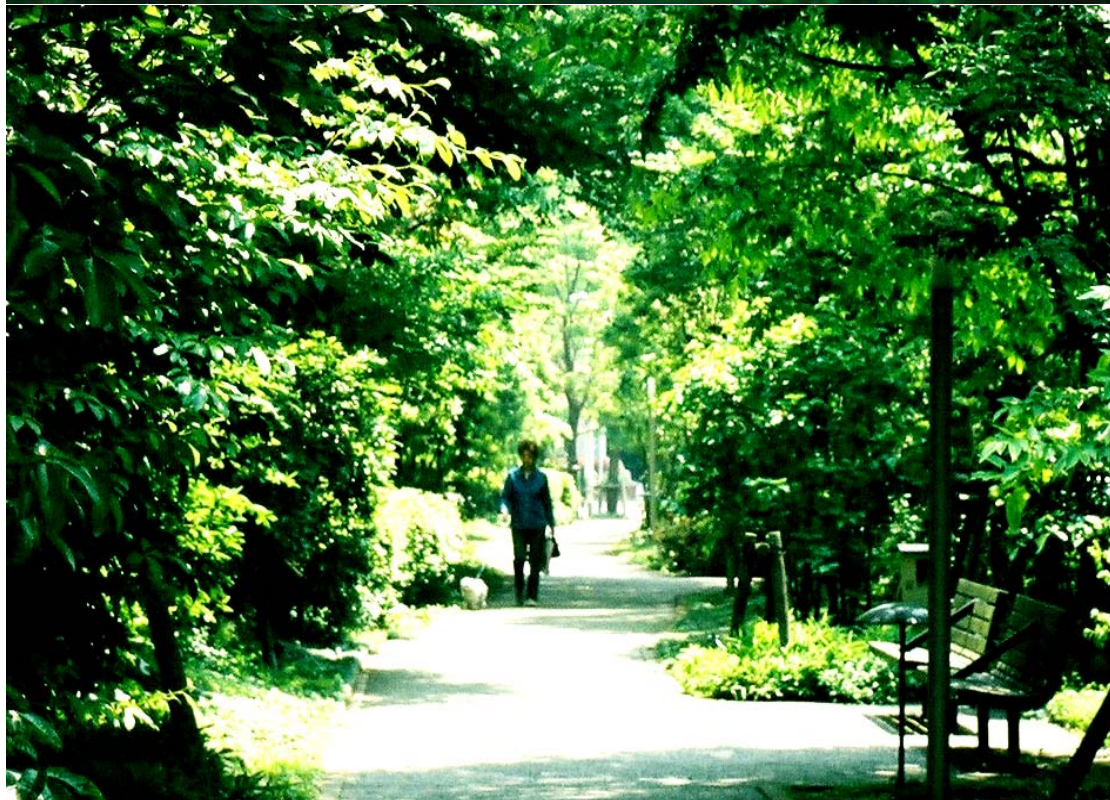
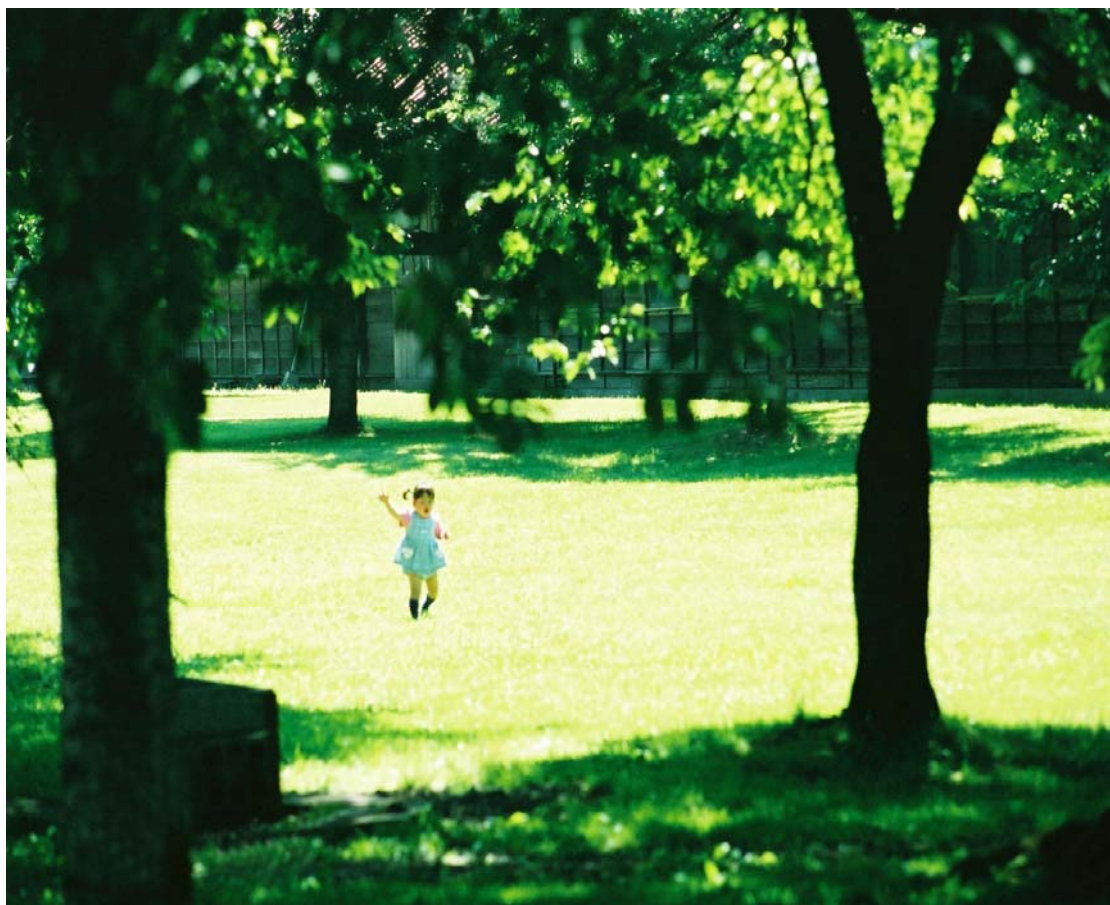
植物がわれわれに与えてくれるのは清涼感だけではない。まったくコストを掛けることなく、酸素を造り出してくれる。動物は酸素を消費するだけで、人間に至っては車や航空機などにより、日々大量の酸素を消費しており、他の動物から見たら実にけしからぬ存在であるに違いない。さらに建築用材としてパルプ原料として、大量の樹木を伐採し、人間は余りにも自然を破壊しすぎた感は否めない。

さらに都市生活で問題なのはマンションという居住形態である。地面を持たないところから来る不便さを、他の面での快適さに替えて販売しているため、エネルギー消費の高いものになっている上に、ゴミを大量に排出する構造になっている。大自然が本来持っているリサイクルの原理を、放棄してしまっているものも少なくない。魚の頭も野菜のクズも猫の餌や堆肥になることもなく、ゴミとして処分される。せめて植物の肥料として活用できれば、それだけでもゴミの量は減るはずだが…。

緑陰の効用もさることながら、今後はこの辺の問題をどうやって解決して、自然と共生してゆくか、これが課題だろう。

※広葉樹と針葉樹＝広葉樹と針葉樹では外見が異なることはよく知られている。

しかし実際にはそれだけではなく細胞や組織が異なっており、針葉樹は細胞の組織や構成が単純で、配列も整然としている。これに対して広葉樹は細胞の種類や働きも多様性に富み、組織も複雑で、細胞ごとの機能も分業化されている。



上は緑陰(千葉県東金市)。下は小径を犬と散歩する女性(さいたま市南区別所沼公園)。

この項に記されている植物のリスト
------------------

<b>【IV】 涼を演出する樹木</b>	03-04-00-1
1) シナノキ=科木	03-04-01-1
2) ボダイジュ=菩提樹	03-04-02-1
3) トネリコ=栲	03-04-03-1
4) ハシバミ=榛	03-04-04-1
5) スズカケノキ=篠懸の木	03-04-05-1
6) ユリノキ=百合の木	03-04-06-1
7) ムクロジとモクゲンジ=無患子と木源氏	03-04-07-1
8) タブノキと(ガマノホ)=榊の木と(蒲)	03-04-08-1
9) カツラ=桂	03-04-09-1
10) モミジ=紅葉	03-04-10-1
11) メグスリノキとハンカチノキ=目薬の木とハンカチの木	03-04-11-1
12) ヤナギ=柳	03-04-12-1

<a href="#">目次に戻る</a>
-----------------------